

## 第 34 回シクロデキストリンシンポジウム報告

この度、第 34 回シクロデキストリンシンポジウムを平成 29 年 8 月 31 日(木)、9 月 1 日(金)の両日に、愛知学院大学薬学部(楠元キャンパス)にて開催致しました。当日は好天にも恵まれ、大学、企業関係者を含め、総勢 223 名の参加を頂戴し、無事にシンポジウムを開催することができました。

初日の午前には、学生による発表を中心とした 10 演題の一般口頭発表と関連学会紹介があり、昼食を挟んで 57 演題のポスター発表が行われました。ポスター会場では企業展示も行われ、多くの参加者がブースを訪れ、盛んな交流が行われました。つづいて加納航治先生(同志社大学名誉教授)より、「超分子ヘムタンパク質モデル」と題して、シクロデキストリン誘導体とアニオン性ポルフィリンとの相互作用を利用した超分子ヘムタンパク質モデルの構築について、特別講演を行っていただきました。その後開催された総会にて、シクロデキストリン学会賞および奨励賞の授賞式が執り行われました。学会賞を受賞された有馬英俊先生(熊本大学)と池田宰先生(宇都宮大学)より、それぞれ、「シクロデキストリンを基盤分子とする統合型ドラッグデリバリーシステムの構築と医薬品原薬への応用」、「シクロデキストリンによるグラム陰性細菌の Quorum Sensing 阻害効果」と題して、受賞講演を行っていただきました。また、奨励賞を受賞された加藤和明先生(東京大学)より、「シクロデキストリンを基盤としたポリロタキサン材料の開発」と題して受賞講演を行っていただきました。初日の講演終了後に、大学カフェテリアにて 164 名の参加者を迎えて懇親会を開催致しました。シクロデキストリン学会会長である高橋圭子先生(東京工芸大学)のご挨拶および愛知学院大学薬学部長の井上誠先生の歓迎の辞、ならびに学会副会長の有馬先生の乾杯に始まり、来賓であるキール大学教授の Gerald Rimbach 先生と Wachter Biosolutions の社長 Gerhard Schmid 様よりご挨拶をいただきました。続きまして、学会賞受賞者である、有馬先生、池田先生、ならびに奨励賞受賞者である加藤先生のご挨拶へと進みました。懇親会は、次会の実行委員長の桑原哲夫先生(山梨大学)よりご挨拶をいただき、閉会となりました。



シンポジウム会場風景



ポスター会場風景

二日目の午前は、3 演題の一般口頭発表に引き続き、特別セッション「ライソゾーム病治療薬としてのシクロデキストリンの可能性」にて、熊本大学の石塚洋一先生、熊本大学の前田有紀先生、そして東京医科歯科大学の田村篤志先生にご講演いただきました。ライソゾーム病とは、ライソゾーム酵素の先天的な欠損や変異により発症する難治性疾患であり、現在有効な治療薬はありません。本セッションでは、ライソゾーム病の中で、エンドライソゾーム内に遊離型コレステロールが蓄積し肝脾腫や重篤な神経症状を呈する、Niemann-Pick 病 C 型へのシクロデキストリン類の有用性について特に着目して議論がなされました。本シンポジウムでの議論によって、本疾患に対する研究がさらなる発展を遂げることが期待されます。次いで、特別講演として、Gerald Rimbach 先生(キール大学・ドイツ)より「Potential health benefits of cyclodextrin encapsulated nutraceuticals」と題して、各種機能性健康食品成分と $\gamma$ -シクロデキストリンの包接複合体を健康補助食品としての利用することの有用性について講演をいただきました。昼食を挟んで 29 演題のポスター発表が行われ、活発な討論がなされました。つづいて一般口演 9 演題が行われ、最後まで白熱した議論がなされました。最後に、ポスター賞と学生の口頭発表を対象とした優秀発表者賞の授賞式を執り行い、盛会のうちに終了致しました。

本シンポジウムの開催にあたりまして、日本応用糖質科学会、日本化学会、日本素材物性学会、日本糖質学会、日本農芸化学会、日本分析化学会、日本薬学会、日本薬剤学会より共催の、高分子学会、日本分光学会より協賛のご協力をいただきました。また、以下の関連団体および企業の皆様より多大なご支援を賜り、本シンポジウムを開催できました。心より御礼申し上げます。

日本シクロデキストリン工業会、旭化成ファーマ株式会社、アドバンス・ソフトマテリアルズ株式会社、塩水港精糖株式会社、小野薬品工業株式会社、株式会社オジックテクノロジーズ、株式会社コサナ、株式会社シクロケム、株式会社シクロケムバイオ、株式会社島津製作所、株式会社新日本科学、株式会社ネクスト、公益財団法人大幸財団、千寿製薬株式会社、大東化成工業株式会社、大同化成工業株式会社、堤化学株式会社、テルモ株式会社、ナガセ医薬品株式会社、日本食品化工株式会社、富士カプセル株式会社、メルク株式会社、有限会社新成化学、湧永製薬株式会社、愛知学院大学、愛知学院大学薬学会、公益財団法人名古屋観光コンベンションビューロー

最後になりましたが、本シンポジウム全般にわたり、ご指導賜りました会長の高橋圭子先生、副会長の有馬英俊先生、ならびに第 33 回シクロデキストリンシンポジウム実行委員長の吉井英文先生(香川大学)に心より御礼申し上げます。また、本シンポジウムの企画ならびに準備、当日の運営などにご尽力、ご協力いただきました実行委員会の先生方、株式会社シクロケムバイオの皆様、学生の皆様、ならびに本学会事務局の皆様に厚く御礼申し上げます。

第 34 回シクロデキストリンシンポジウム実行委員会 実行委員長  
小川 法子(愛知学院大学)